

平成29年度第2回匝瑳市子ども読書活動推進計画策定委員会議
会 議 録

- 日 時 平成29年12月15日(金) 15:30~17:35
- 会 場 匝瑳市民ふれあいセンター談話室
- 出席委員 石橋春雄委員長(図書館協議会代表)、伊藤敏江副委員長(市内小学校代表)、嶋田祐子委員(市内中学校代表)、鶯塚京子委員(図書館ボランティア代表)、嶋田純子委員(市内保育所代表)、秋山正子委員(市内幼稚園代表)、有田光委員(学校教育課長)、増田善一委員(図書館長)、日下部真一委員(生涯学習課長)以上9名
- 欠席委員 木村順子委員(家庭教育指導員)
- 事務局 宇井主査、江波戸社会教育主事

1. 開 会 宇井主査が進行
2. 挨拶 石橋委員長
3. 議 事 石橋委員長が議長となり進行

(1) 第二次匝瑳市子ども読書活動推進計画(案)について

議 長 事務局の説明を求める。

事務局 **第二次匝瑳市子ども読書活動推進計画(案)の説明。**

議 長 事務局より、第二次推進計画の案について説明があったので審議をお願いします。

委員G 学校等における読書活動の推進課題で、保育所(園)の読み聞かせ等が不定期になっているとあるが、なぜ不定期が課題なのか。また定期的に実施しなければいけないのか。中学生の不読率の二つの主な原因が、「受験や部活動と多忙な生活時間」と「スマートフォンやインターネットの使用頻度の変化」とあるが、断定して良いのか。それだけではない部分もあるとすれば、表記を変えるか、省略するなど、考えたほうが良いのではないのか。

事務局 不定期の表現は幼稚園での読み聞かせは毎日あり、保育所(園)では半分位であり、やったりやらなかったりではなく、継続的にという意味である。

G委員 数を増やすという事なのか。数が少ない事が課題なのか。

- 事務局
E委員 子どもには、コンスタントに実施されるほうが良いと思う。
保育所（園）で本に触れる機会は毎日ある。読み聞かせは、昼寝前や活動の合間に読んでいる先生も多い。アンケートの捉え方が十分でなかったのではないか。保育所（園）も絵本や紙芝居、図書館からも季節の本を借りており、提供の機会は十分あり、実際にやっている。
- H委員 意識調査の結果から、読書好きと不読率の割合が記載されているが、何の意識調査なのか。
- 事務局
H委員 平成28年度学力学習状況調査の匝瑳市のものである。
平成25年度の県の数値を見ると小学校6年生の11.5%。中学校3年生の18.6%に比べて、匝瑳市はそんなに劣っているのか。
- 議長 朝の読書活動も中学校は3校実施しているのに整合性が取れていない。小学校に比べたら中学校が低いのは間違いないと思う。
- 事務局
H委員 不読率に関しては持ち帰り、再度検討する。
保育所（園）と幼稚園の比較で、保育所（園）は紙芝居を8園で毎日実施している。また推進計画となっているが、以前の計画推進のイメージのほうが良いのではないか。
- 事務局
B委員 持ち帰って検討する。
イメージ図がフローチャート図になり、見やすくなった。基本方針は3つあるが、家庭や学校等に記載されている番号は基本方針にリンクしているのか。
- 事務局
G委員 リンクしている。
各教科、特別活動、総合的な学習の時間等の所に、外国語活動を特に入れなくて良いのか。また、本を通しての交流活動の推進の子どもによる読み聞かせの子どもは児童生徒に統一したほうが良いのではないか。
- 事務局
B委員 検討する。
数値目標設定における、作業部会での根拠を説明願いたい。
- 事務局
B委員 部会員5名で検討し、あまりハードルを上げ過ぎず数値を設定させていただいた。
「1冊も本を読まない」という言葉の解釈だが、「読み終わっていない」、「現在読んでいる」でも良いのか、読破しないと読まないになるのか。
- 事務局
D委員 「読み終わらないと読まない」事とした。
設問の仕方や答える子の受け取り方で、かなり難しいと思う。
- G委員 朝の読書活動は100%実施しているので、本に触れていない子は

いないと考えると、40%は消極的過ぎるのではないか。もっと積極的な数字をあげても良いのではないか。あと、登録率0歳から15歳とはどういう事か。

H委員 登録カードを持っている人数を言う。

D委員 読書時間だが、30分以上の割合と目標値が問題で、場所が限定されているから低いのか。

B委員 図書館の捉え方だが、市図書館か学校図書館か。子どもはどう捉えているのか。

議 長 普段というのは、月曜日から金曜日までの一日あたり30分か、それとも月曜日から金曜日までの合計なのか。現状把握により目標値も下がるのではないか。

G委員 表記を市図書館とすると、なかなか行かないので、かえって数値が下がって難しくなる。学校図書館を入れれば数値が上がる。そのように考えても、基本方針の中の読書に親しむ機会の充実と違っている事ではないと思われるが。

D委員 先日、某小学校へ読み聞かせに行ったが、小学校5年生に今週学校の図書室へ行ったか聞いたところ、一人もいなかった。図書室の配置にもよるが、3階の暗い図書室や1階の明るい図書室等あり、配置による学校格差もある。

B委員 本校では年度の予算で選んだ本は学級文庫に配置し読んでいる。よって学級文庫が大変充実している。学級で読んだ後、図書室のほうへ移している。

議 長 実態と合っていないので受け取り方が難しいのではないか。読書に親しむ機会の充実に場所を限定しなくても良いのでは。

H委員 市図書館の年間貸出しの数値は低いのだが、子どもの数が減っているので現状維持でお願いしたい。

議 長 家や学校で平日30分以上読書する割合も現状値が低すぎると思う。再調査をする必要がある。

C委員 朝の読書活動実施率は100%だが、朝の読書活動は決められたからやっている。朝の読書活動等、決められた以外の読書はどうか。

議 長 アンケートの設問により、単純な質問にして小学校6年生と中学校3年生は再調査をお願いするという事でよろしいか。

各委員 (全会一致)

議 長 不読率の意図は理解できた。読んでいない子がこれだけいるので、これだけ増やしたいという不読を表しているのが良くわかる。現実

問題、読んでない子はいないと思うので再度アンケートを実施した場合、細かな質問は避けたいと思うが如何か。高学年になればなるほど難しい本を読み、1冊読むのが大変だと思う。

G委員 「朝の読書活動の実施率」だが、学校によっては学校独自の読書活動の実施として、学校の工夫を生かした表記にすれば、今後、朝に英語等が入ってきても実施率100%は変わらないと思う。

F委員 読書に親しむ機会の充実に不定期なものを定期的にするところがあるが、発達段階に応じて定期的という読書の活動は現場にはすぐわないのではないか。

事務局 持ち帰って検討する。

議長 他に意見なければ、その他について何かあるか。

事務局 表紙について、第一次匝瑳市子ども読書活動推進計画の表紙は飯高寺講堂であったため、部会で審議した結果、図書館からは市章、生涯学習室からはソーサマンの実写と飯高寺の「橋門伝八」と言うキツネのイラスト2案が出ているが如何か。

G委員 ソーサマンは合わないと思うので、その他でお願いできないか。

事務局 持ち帰って検討する。

また、表紙の裏に市長や教育長の巻頭言を載せている市町村もあるのですが、本市は如何か。

H委員 表紙の裏面には目次が入っている。巻頭言は無くても良いと思う。

F委員 日程も時間もないので巻頭言は無く、表紙の裏面はそのまま目次でお願いしたいと思う。

事務局 表紙の裏は目次を印刷するという事で確認をした。

また、今後の予定は、本日ご指摘を頂いた検討事項について、早急に修正案を取りまとめ、作業部会にて確認を行う。その後、事務局にて各委員の了承を得た上で、1月にパブリックコメントを実施し、意見があった場合は第3回策定委員会議を開催し、再修正の上、3月の定例教育委員会議で推進計画の決定を考えているので、引き続きご協力をお願いします。

4. 閉 会